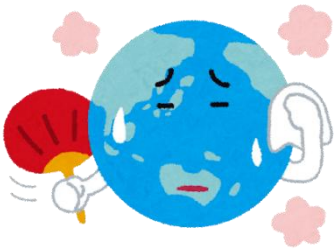
R7 楡木小学校　学校通信
No.１５
なりたい自分になる！
In 楡木サラダボウル
令和７年７月１１日
文責　余宮

すでに梅雨明け、７月初旬にもかかわらずこの暑さ…何かとても心配です。

なんでも簡単に考えることはできない



　驚くほど早い梅雨明けに加え、７月に入っての猛暑。残念ながら、外での活動を中止せざるを得ない状況が目の前にあります。

　「あ～外で遊びたかったのに…」「楽しみにしていたのに…」

　うん、分かる。でも、この命に係わる暑さは厳重警戒が必要です。現在、教室内の空調とともに、外での活動は帽子必着だけではなく、ありとあらゆる警戒を学校では行っています。本当に心配な暑さ、お家の方と協力しながら、子どもたちの安全を守っていかねばと、強く願ってやみません。特に、下校時が暑い！

　地球温暖化という言葉が生まれて久しくなります。さらに、2023 年 7 月には、アントニオ・グテーレス国連事務総長が「地球沸騰化」という言葉を使い、改めて暑さに対する災害級の状況への警戒を呼び掛けています。

　どうにかできないものか。

　そう思わない現代人はいないのではないでしょうか。今回は、この地球温暖（沸騰）化を話題に取り上げてみたいと思います。

　失礼覚悟で、この温暖化一番の要因は何だと思われますか。マスコミ等の影響で、CO_2の影響が…とか、すぐに私は頭によぎります。もちろん直接的な要因は、ヒートアイランド、都会が熱くなっていることです。よくよく考えれば、当然と言えば当然です。これほどの車社会、ガソリンを爆発させながら直接熱している状況。快適な環境をつくるための冷房も残念ながら発熱中。スマホも冷蔵庫も電化製品といわれるもので熱を発しないものはない。

　医学博士で解剖学者でもある養老孟司さんは、このような状況を「都市を直火で熱しているようなもの」と例えておられます。

　じゃあ、地球温暖化の原因は「ヒートアイランド」、ひいては「温室効果ガス」で決まり？養老孟司さんは、私は「わからない」としか言えない、と次のように続けられます。

> 温暖化の与える影響にしても、「ああすれば、こうなる」のような単純な因果関係で語ることはできません。生態系はものすごく複雑ですから、何が何の影響なのかを簡単に判断することはできません。

　う～ん。悩む。

　さらに続けて、養老孟司さんは「ああすれば、こうなる」が最も理性的だと信じて疑わない現代の考え方へ警鐘を鳴らしておられます。科学に１００％の正解はないのだ、と。

　え～、何もかも、科学でさえも信じられないの？？

　いや、だからこそ、科学は「確実なこと」を探し続けているんだ、と養老さんは科学の本質を指摘しておられます。科学は、確実なことを探したいからこそ、常に疑う姿勢をもっているのだ、と。

　どうやら、この暑さ対策にも、単純な解決方法はなさそうです。しかし、この暑さをどうにかしなければと、常に考え続けることが必要です。再度、お家の方と手に手を取り合って、子どもたちを暑さから守っていきましょう。